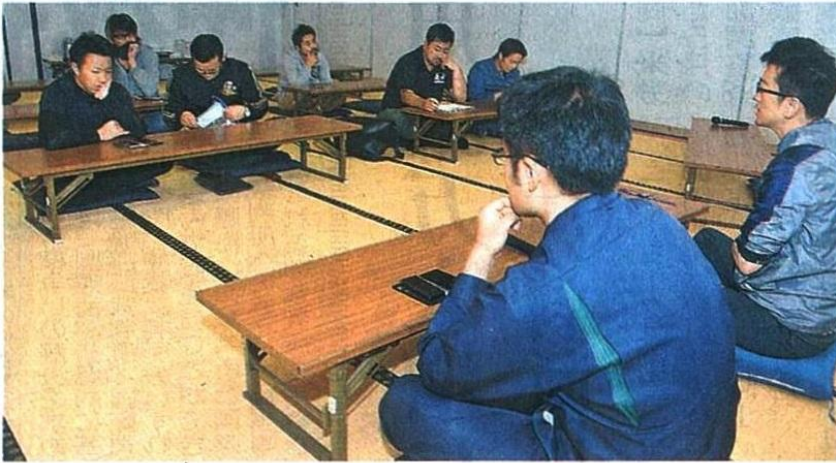


水産業の将来像探る

深 浦

全国の若手漁師ら研修

地域から日本の未来をつくる社会実験プロジェクト「東北オープンアカデミー」が主催し、全国の若手水産関係者の実地研修が3日、深浦町で行われた。参加者は同町の水産加工施設の見学やワークショップを通じ、水産業の課題や将来の在り方を探った。(竹内健一)



水産業の課題や将来像を語り合ったワークショップ

同アカデミーは、社会起業家を支援する東京のNPO法人などが実行委員会を組織し、昨年からは東北の1次産業や伝統工芸などの現場で実地研修を行っている。

県内初開催となる今回は「地域を牽引する水産業モデル」をテーマに、マグロの水揚げから加工、販売までを手掛ける深浦町の水産加工業「あおもり海山」などで研修した。

北海道から福岡県までの漁師や学生ら12人が参加。同町で定置網漁や同社のマグロ加工センターを見学した後、深浦観光ホテルでワークショップを開き、漁業の将来像などを語り合った。

同社の野呂英樹営業部長(31)は「誰も反対できないような大きな目標を掲げると周りからの賛同を得やす

い」と自らの経験を基にアドバイス。参加者からは「1次産業の従事者はそれぞれ点にとどまり、まとまりがない。全国の前向きな漁師のネットワークをつくりたい」などの思いが語られた。研修の案内役を務めたN

PO法人「東北開墾」(岩手県花巻市)の高橋博之代表は「ここで得たものをそれぞれの地元を持ち帰ることで、水産業再生のヒントになれば」と話した。実地研修は4日まで行われる。